転換中のロシア軍事戦略

漢和防務評論　20101218
平可夫(モスクワ)

ロシア軍は、NATO 及び米国を主要な仮想敵国とする従来の戦略思考を改変しつつある。ロシアは、NATO 及び米国との政治的、軍事的関係を大幅に改善したことから、2009 年以後、NATO、米国及び中国を同時に潜在的な戦略上の競争相手とした。この点は、2010 年 7 月から行われた“2010 東方”戦略演習において明確に見ることができる。

この軍事戦略の転換は、ロシアと中国の軍事技術協力に大きな影響を与えた。1992 年以降、ロシア軍内部の主流派の軍人学者達は、戦略的に中国の軍事力を強化すべきであると主張した。その理由は、中国と日米間の緊張関係は、ロシアが極東において日米を牽制する上でプラスになると考えたからである。しかし 2005 年以降、ロシア軍は、軍事改革を積極的に推進し、極東、シベリア方面の軍事力を重点的に強化した。ロシアが極東及びシベリアを戦略的に統一し一体化した意図は明白である。ロシアは、極東で陸上から中国の脅威を受けた場合、欧州の軍事力を極東地区へ迅速に展開しようとしている。ロシアは、毎年”東方”シリーズの戦略演習を行っており、年を追うごとに規模が大きくなっている。特に注意すべきことは、陸上、航空、海上の一体化した快速反応能力である。この点は、演習の仮想敵が多重の性格を持ち、日米の軍事力だけが対象ではないことを明確にしている。さらに興味深いことに、モスクワが NATO の東拡に高度に神経質になっているにもかかわらず、毎年極東で行われる”東方”シリーズ演習は、欧州で行われる演習に比べて規模が大きく期間が長い。

ロシア軍は、中国の軍事力増強への対応を開始した。ロシア軍は、特に陸軍の装甲戦力の強化に注意を払っている。ロシア外交部のニュースソースは非公式に次のように述べた。「我々は、極東地区に対して高度の注意力を払っている。一旦予測不可能な事態が発生した場合、我々は戦術核兵器を準備している。ロシアの従来の極東防衛戦略では、日米の軍事力がロシアの極東、シベリアに対し陸地から侵入することを想定したことはなかった」と。ロシアが上述の軍事戦略の転換を行った理由を考えれば、ロシアが中国に対して兵器を輸出するのを躊躇する気持ちを容易に理解できる。各種の武器が中国には輸出しないと決定がなされるのは、事実上最後の段階で、例えば SU-35 型戦闘機等のように、国防部軍事技術協力局の強い反対に遭うからである。

”2010 東方“軍事演習の写真は 2010 年 7 月の間、ほぼ毎日”ZVEZDA”

軍事テレビ放送局で放映された。動員された人数は、陸軍だけで 20,000 名以上であり、ロシアは、極東及びシベリアに初めて統一された聯合指揮系統を建設し、二つの戦略方向に対する一体化した作戦指揮を行った。相当多くの空挺降下部隊が急遽欧州から派遣された。しかも SU-34 型前線爆撃機は無着陸で欧州から中露国境地区に移動し模擬爆撃を行った。海軍は、ロシア時代になって初めて北方艦隊と太平洋艦隊の聯合作戦を行った。北方艦隊の KIROV 級大型ミサイル巡洋艦は、極東海域に進出し、戦時における太平洋艦隊の基地封鎖問題を解決するため、如何に”某国”の南北を突破するかについて演練した。この演習の仮想敵は、たしかに多重の性格を持っている。第一に、ロシア海軍は、インド洋及び南シナ海に大きな関心を持っていることを示すと同時に、中国海軍の勢力拡張に対応しようとしている。また”ZVEZDA”放送局は、演習中、BUK-M 及び S-300 による二重防空及び弾道ミサイル迎撃の画面を放映した。ロシアの極東及びシベリアに対して、どの国が弾道ミサイル攻撃を行うというのであろうか？冷戦時代、ソ連はハバロフスク地区に最初の S-300V 型弾道ミサイル防御システムを配備した。このシステムは現在も存在している。

2005 年以来の”東方演習”シリーズでは、TU-22M3 型及び TU-95MS 型戦略爆撃機から各種巡航ミサイルが発射され、ロシアの長距離戦略爆撃能力が展示された。これらの爆撃機は、中露国境から 105 KM 手前にある UKRAINKA 空軍基地から発進した。2005 年以来、この基地の訓練活動は正常に回復している。戦術演習科目について述べると、UKRAINKA 基地の主要作戦任務は、戦時に、中国及び日本の戦略目標に対して長距離巡航ミサイル攻撃を行うことである。また同基地は主要な戦術核兵器を保有している。ロシアは、NATO とは異なり、中国との間に戦略的互恵関係が無いので、(この関係は、コソボ紛争及びグルジア事件の影響を受けている) 今年の”2010 東方演習”には従来通り中国のオブザーバーは招かれなかった。事実を見れば、NATO とロシアの関係、中国とロシアの関係は異ることが分かる。また”上海協力機構”に実質的な意味が無いことが分かる。

また注意すべきことは、ロシアの”2010 東方演習”と同時に、米軍が黄海で行った大規模海軍演習である。この演習に、中国は明確に反対を表明したが、ロシアは現在に至るまでいかなる見解も表明せず、一方で、最近発生した”米露スパイ事件”に対しては、ロシアは極めて穏便に処理し、再び米露関係の新たな”特徴”(変化？) を強調することになった。しかもロシアの如何なるマスメディアも米軍の黄海における軍事演習について評論も分析も行っていない。その理由は”2010 東方演習”が米軍の黄海演習に対抗したものでないからであ

ろう。これに反して米国及びロシアは、太平洋の北と南で、陸地、空中、海洋でそろって軍事演習を行った。その意味するところは、冷戦終結後に出現した新たな極東アジア情勢の可能性がある。

以上